
少女カリカチュア

ミルメコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少女カリカチュア

【コード】

N8770M

【作者名】

ミルメコ

【あらすじ】

或る病院の医師と患者を中心とした少女たちの物語。

三ノ森病院

三ノ森 サンノモリ 病院に一人の少女が運ばれて来た。瞳孔が開ききり、呼吸もままならない状態だった。彼女はすぐに応急処置室に運ばれた。

病院に連絡した少女は彼女の妹だと名乗ったらしい。翌朝少女に話をすると彼女は妹などいない言った。

「様子はどう?」

医者が尋ねると看護婦は無表情のまま答えた。

「今朝からずっと眠っています」

「そうか。まだ家族と連絡も取れなくてね」

三ノ森病院の院長である三ノ森月碑 ツキヒ は小さく息を吐いた。少女はそれから幾日かは殆ど動かずに部屋の隅に座っていた。

背中の辺りで黒髪を切り揃えた少女がじっとしている様はまるで人形のようにだった。

「お姉様」

院長室に一人の少女が入ってきた。月碑は顔を上げると少し笑んだ。

「星屑 ホシクズ、久しぶりだね」

「はい」

長い黒髪を揺らし、少女は少し首を傾げた。着物に合わせた紅い髪飾りが小さな音を立てた。

星屑はちょこんと椅子にかけるとテーブルの上に四角い包みを置いた。

「お母様からです」

「悪いね」

包みを開き、中のおはぎを見ると月碑は礼を述べた。

「たまには家に帰ってきてくださいな」

星屑は小さな唇を少し尖らせた。

「はは、なかなか忙しくてね」

「星屑はいつでも待っておりますわ」

星屑が帰ってしばらくすると看護婦が部屋の扉を開けた。

「往診の時間ですが」

病室に着くとベッドの上に座りこんで白髪をかきむしり、うわごとをつぶやく少女がいた。

「せんせえ」

少女は月碑を見ると彼女の下まで這って行って白衣の裾を掴んだ。

「せんせえ、手術して」

「どうしたの？手術はしなくて大丈夫だよ」

少女は声の調子を高めた。

「ダメなの！ぼくはダメだから手術しないといけないの！」

「大丈夫だよ」

「ダメ！！」

殉 ジュン は眼を見開いて叫ぶと、すすり泣きを始めた。

「お願いだからあ…手術してよお…もお…死んじゃうの…」

それからまた叫びだした殉に月碑が鎮静剤を与えようとした時であった。

「ちゅんちゃん？」

病室の扉近くに立つ一人の少女が殉を呼んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8770m/>

少女カリカチュア

2010年10月9日07時19分発行